

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成21年1月8日(2009.1.8)

【公開番号】特開2005-207818(P2005-207818A)

【公開日】平成17年8月4日(2005.8.4)

【年通号数】公開・登録公報2005-030

【出願番号】特願2004-13231(P2004-13231)

【国際特許分類】

G 01 B 11/04 (2006.01)

【F I】

G 01 B 11/04 H

【手続補正書】

【提出日】平成20年11月14日(2008.11.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

磁気テープ等の各種のテープが種々の用途に用いられている。例えば、磁気テープは、高速走行中に各種の情報を記憶するために用いられており、その情報記憶領域を正確に管理する必要があり、製造工程においてテープ幅を高精度に管理する必要がある。また、各種のテープは、走行する幅広のシート材料をスリッタにより所定のテープ幅に切り出すことにより製造されるため、製造工程においてテープ幅をリアルタイムで高精度に測定することが強く要請されている。特に、走行するテープをリアルタイムで測定できれば、測定データに基づいて走行するテープに作用するテンションに対してリアルタイムでフィードバックできるため、製造上の歩留りを大幅に改善できる効果が達成される。

従来、磁気テープ等の走行するテープの幅を測定する方法として、走行するテープの両方の縁部にテープをはさんで光源とフォトマルを配置し、フォトマルに入射する入射光量からテープ幅が測定されていた。すなわち、テープ幅が基準値よりも増大するとフォトマルに入射する光量が減少し、テープ幅が基準値よりも小さくなるとフォトマルへの入射光量が増加する。よって、フォトマルへの入射光量に基づいて走行するテープの幅が測定される。

また、テープの幅を測定する方法として特許文献1に記載の方法が知られている。

【特許文献1】特開2001-50715号公報